

令和4年度学位記授与式 式辞

皆様、卒業及び修了、大変おめでとうございます。

本日は、学部において二百二十一名が卒業し、学士の学位記を受け取りました。大学院においては二十名が修了し、修士及び博士の学位記を受領いたしました。誠にありがとうございます。本学の教職員を代表しまして、心からお祝い申し上げます。また、皆さんをこれまで励まし支えたご家族の方々にも、お祝いの気持ちをお伝えしたいと思います。

本日は年度末の大変お忙しい中、千歳市長 山口 幸太郎様、千歳市議会議長 山崎昌則様、内閣府 副大臣 衆議院議員 和田 義明様、その他、北海道議会及び千歳市議会の議員の皆様、千歳市の幹部職員及び委員、そして本学と関係の深い企業及び教育機関の方々にもご来賓としてお迎えすることができました。誠にありがとうございます。

今回の卒業式・修了式は、新型コロナウイルス感染症の影響で、大幅に制限されていた、過去三年間の形式とは異なり、以前と同じとはゆきませんでした。保護者の皆様にも参加いただき、できる限り通常の形で、開催させていただきました。

卒業生・修了生の皆さんにとって人生の大きな節目としてかけがえのない式典であり、またご家族の皆様もその晴れの日を楽しみにしておられたことと存じます。ただ、この感染症の影響がなくなったわけではありません。卒業生・修了生の皆さんには、健康と安全を保ち、新年度からの新たな進路で、ご活躍いただきたくことを、祈念しております。

今回卒業・修了を迎える皆さんは、「人格陶冶」、「人知還流」という言葉、記憶にありますでしょうか。入学時、或いは在学中に、聞いたことがあるのではないかと思います。この千歳の地に、本学が創設されたときに謡われた、建学の精神です。

「人格陶冶」とは、ひとりひとりが、人として正しい生き方を追求し、自らを常に進化させ、自己研鑽することを意味します。正しい倫理観・道徳観で、向上心を高く持ち、前向きに生きてほしいということです。

「人知還流」とは、大学で学んだ皆さんが、そこで得られた知恵を、広く社会に役立てること。それにより、社会全体が発展し、より良い世界とすすむ。結果として、その社会の中で、新しい知恵や知識が育ち、それをまた皆さんが学ぶ。このような、知恵の循環を意味しています。

本日、この日を迎えた皆さんは、本学での学びや生活を、どのように感じたでしょうか。特にこの三年間は、学外活動も大きく制限され、クラブ活動もサークル活動も難しく、非常にストレスのかかる、厳しい時期だったように思います。一方で、この期間、オンラインツールの発達は著しく、自宅から大学の授業に出席することもあったと思います。また大学院の皆さんは、オンラインで国際会議に出席し、自らの研究成果を発表するような、以前とは異なる環境での学びや研究活動を行いました。今後は、対面型のオンサイト形式とネットワークを使ったオンライン形式を融合したブレンド型の教育や研究活動が進んでゆくと考えられます。皆さんは、そのような新しい時代の、パイオニア世代となりました。好むと、好まざるにかかわらず、選択の余地がなかったことはよく理解していますが、ビッグデータを活用し、人工知能を駆使して、メタバースと呼ばれる世界も取り込んだ、新たな社会が始まっています。その社会の基本や、構造は、皆さんの心の中にすでに構築されており、今後も、継続して成長発展するものと期待しています。ぜひ、皆さんの知恵を、広く社会に役立て、より良い世界の実現に向け、大きく貢献していただきたいと思います。

もう一つ、皆さんにお話すべきことがあります。いま世界では、いろいろな場所で争いが起こり、また、地球温暖化による気候変動、辛辣な地震などの大きな災害が発生しています。個人の力では避けられない事態であることはわかりますが、我々が住むこの社会をこれからどうすべきか、真摯に考えていただきたいと思います。我々の大学は、理工系の大学です。これから皆さんは理工系の学位を有した研究者、開発者、技術者となります。避けられない災害に対しても、我々の技術力を信じて、臆することなく、常に前向きに取り組んでいただきたいと希望します。時には、安全ではなかった技術が原因で、大変な災害が発生することもあります。しかし、それには、さらに一歩進んだ科学力で対応することが、よりよい社会の形成につながるものと思います。

ここにいる皆さんは、応用化学、生物学、電子工学、光科学、情報科学、システム工学を学んだ研究者・技術者であることを十分自覚し、自分の専門を生かし、さらには、異分野の領域にも興味を持って、これらのキャリアを進めていただきたいと思います。特に、新しい課題と対峙した時に、この課題は難しく大変だと思わず、このぐらいの課題は解決できると考えたとき、優れた解決策が見いだせることがあります。何事も、自らが持つ力を信じるのが第一歩ではないでしょうか。

自らの知識と知恵を使い、世界を切り開いてゆくことを心から祈念して、私からの式辞に代えたいと思います。皆様の、今後の発展を強く期待しております。
本日は、誠におめでとうございます。

令和5年3月25日
公立千歳科学技術大学長
宮永喜一